



撮影：南寧市発展改革委員会



## 中国・広西チワン族自治区南寧市

# 華僑資本を取り込め！ 後発経済開発区の苦心

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

**WATCH FIRE**

【開発途上国の明日】



# 中

国最南端の省、広西チワン族自治区。中国最大の少数民族である南方系のチワン族を擁し、日本では名勝桂林で知られる。

省都南寧市から車で北に30分の近郊では、「中国－ASEAN経済圏」の建設が急ピッチで進んでいる。

この投資誘致地区は広東省とベトナムを結ぶ道路交通の要衝に当たることになりだ。広大なサトウキビ農場を転用した敷地は東京臨海副都心の30倍の広さに及ぶ。

こうした投資誘致地区は、広東省深圳市などの成功を機に、今やさまざまな形態で全国6000カ所以上設けられている。どこも差別化を図ろうと必死だ。同経済区は、比較的深いつながりを持つASEAN諸国の華僑系企業を主な誘致ターゲットとしている。広西自治区は過去40年にわたり多くの帰国華僑を受け入れてきた。インドネシアでの華僑迫害や中越紛争の際には数万人が転入したという。また中国－ASEAN首脳会議や博覧会も開催している。このつながりを強調すべくここを「南寧華僑投資地区」とも呼ぶ。

造成中の敷地にはまだ数社の建物しか目に入らぬが、同経済区の誘致センターによると、国内大手ビール会社の「珠江啤酒」など内外150社が進出予定という。どれだけアセアン華僑の資本を誘致できるのか、興味を引かれるところである。

